生涯学習情報誌
Life Learning

8
2021
Aug.
NO.372

生涯学習開発財団

9/1
募集開始

2021（令和3）年度

博士号
取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとらわれない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。
平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。
財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っております。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作りに貢献することをめざしています。
本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

■ 採用予定人数
特に人数は定めません。

■ 助成金の支給
・支給金額は一人あたり50万円
・支給日は2022年３月（予定）

■ 応募資格
以下の条件を満たす者
・50歳以上（性別、国籍、所属を問わない）
・日本国内に在住している者
・博士課程（博士後期課程を含む）に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者
・日本国内の大学で博士号を取得予定の者
・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・研究タイトル・写真の公開を了承する者

■ 応募方法
（１）提出書類
・指定申請書
・身元証明書
・研究計画書
・推薦書　　ほか
詳細は募集要項でご確認ください
（２）応募締切日
2021年12月10日（金）必着

■ 選考
提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで

GLC
一般財団法人 生涯学習開発財団　博士号取得支援事業部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館9階　TEL 03-3508-4551
募集要項･申請書は➡ http://www.gllc.or.jp　E-mail hakushi@gllc.or.jp

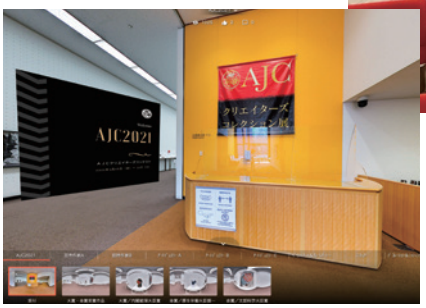
AJCクリエイターズコンテスト2021

財団後援事業

東京都美術館およびVRミュージアムにて
主催：AJCクリエイターズコンテスト実行委員会

江幡哲也実行委員会会長はあいさつで「来年こそ皆さんと乾杯したい」と述べた。

マスク着用で席間も十分にとって開催された（後列はプレゼンター各位）



↑今回もWEBサイト上にVRミュージアムが開設されている。（https://ajc.jpn.com/から「VRミュージアム」へ）

←2021年殿堂入りしたJunko.toris氏の招待作品「空想音楽会」

財団が後援し、協賛会員の㈱オールアバウトライフワークスが実行委員会を運営する「AJCクリエイターズコンテスト2021」の表彰式が、7月3日、東京都美術館の講堂にて開催された。昨年は展示短縮のうえ表彰式が開催できなかったため、大賞、金賞受賞者をあらためて会場に紹介し、花束が贈呈された。作品展示は3月26日～30日で開催済みだが、現在もVRミュージアムとして鑑賞可能だ。

今年のコンクールのエントリー数は533点、うち入選が247点だった。高橋良子文化学園大学元教授は講評で、大賞や上位の受賞作品はもちろん素晴らしいが、入選作と選に漏れた作品の差もほとんどないくらい全体のレベルが上っていると述べた。生涯学習開発財団賞は今回5作品に授与され、財団理事・事務局長の佐藤梨奈がプレゼンターを務めた。

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞

梅村里美氏
アートジュエリー部門
「秋の褒美」

〈金賞〉文部科学大臣賞

古山文子氏
ファブリックアート部門
「炎涼（エンリョウ）」
代理受賞

〈金賞〉厚生労働大臣奨励賞

有野世都子氏
アートジュエリー部門
「健やかに」

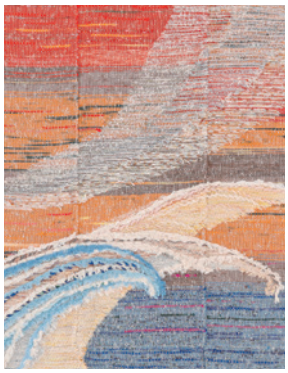
〈大賞〉内閣総理大臣賞

林　直子氏
アートジュエリー部門
「執着鶏頭図
～More Freedom～」

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞

山本和子氏
フラワーアート部門
「屋久島・森の輪廻」（写真は部分）
表彰式欠席

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



今野隆子氏
ファブリックアート部門
「波涛を越えて」（写真は部分）
表彰式欠席

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞

HARU氏
人形部門
「ビスクの様な
羊毛ドール」

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞

横尾愛子氏（U-25）
アートジュエリー部門
「泳ぐ宝石」

※U-25（アンダー25）は25歳以下の出品者

書籍『勇気の育て方』を出した柴崎嘉寿隆さん（クエスト総合研究所 代表）

「自分はどうしたいの？」子どもに問い続けるドキュメンタリー

■子どもがすべて自分で決めるキャンプ

財団協賛会員の柴崎嘉寿隆（かずたか）さんが著した『勇気の育て方』という書籍が出版された。柴崎さんは、アートセラピーの講座と資格認定をするクエスト総合研究所の代表だが、並行してNPO法人子ども未来研究所を運営。小中学生を対象にしたグロースセミナーを、約30年にわたって提供している。このセミナーは、北海道での4泊5日のキャンプをメインとして、その前後に東京で行われる、セットアップとフォローアップの1日セミナーで構成されている。なんと参加者の半数以上がリピーター。グロースセミナーが夏の予定の大前提になっている家庭も少なくないという人気だ。

書名に「育て方」とつくがノウハウ本ではない。4泊5日のキャンプを通して、子どもたちが壁にぶつかり、それを乗り越えて成長する姿を追ったドキュメンタリー。そしてそこから何を学ぶか、子どもたちからシバシバと呼ばれる柴崎さんの解説で構成されている。シバシバは「自分はどうしたい？」と問いかける。参加するかどうか、親がどうさせたいではなく、子ども自身が決めるところから始まるのだ。

■困難を乗り越える勇気は自分の中から

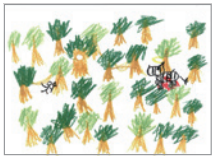
キャンプは北海道士幌高原の大自然の中、ヌプカの里にて行われている。キャンプでのプログラムは多彩だ。深い森を歩いたり、険しい山に登ったり、テントで寝たり、熱気球を飛ばして乗ったり、マウンテンバイクで30㎞走ったり、ジャガイモを掘って手分けしてカレーを作ったり……。とても楽しく生命力を刺激しそうだが、それだけなら他のキッズプログラムや林間学校にもある。このキャンプは、プログラムを用意するのは大人だが、それをやるかどうか、グループも役割分担も子どもたち自身が考えて決める。自分の思いを話せない子、できないと泣く子、小さないさかい、忘れ物などいろいろあるが、それこそがこのセミナーの肝だという。シバシバは1時間でも2時間でも「君はどうしたい？」と問いかけ、子ども自身が答えを見つけ乗り越えるのを待つ。

柴崎さんと著書『勇気の育て方』（1万年堂出版）

キャンプファイヤーでの「承認の実習」と最終日の「ミドルネーム宣言」も秀逸だが、詳細はぜひ本書で、さくらちゃんの成長と合わせてお読みいただきたい。

■自分軸を持って生きる楽しさ

前後の1日セミナーも大切だ。ある子の参加する前と後の2枚の絵を見比べてほしい。心理検査の一つだが分析はさておき、伝わってくる。キャンプをきっかけに「海外留学したい」と宣言し、中学卒業と同時に実現させた子も2人いる。OBがボランティアスタッフとして来てくれる。彼らと会えるのもシバシバの楽しみだ。



「私自身、母子家庭だったこともあり、自分の思いを言えない子どもでした。大人になってからも、できる先輩のマネをしたり、成功者のノウハウ本に頼ったりしましたが、自分のやりたいことがないのにうまくいくはずがありません。自分のやりたいことをやろう！　そう決めてから、ほんとうに人生が楽しくなりました。それが私は31歳のとき。自分軸を持って生きることのすばらしさを、子どもとその親に、もっと早く気づいてほしいのです」